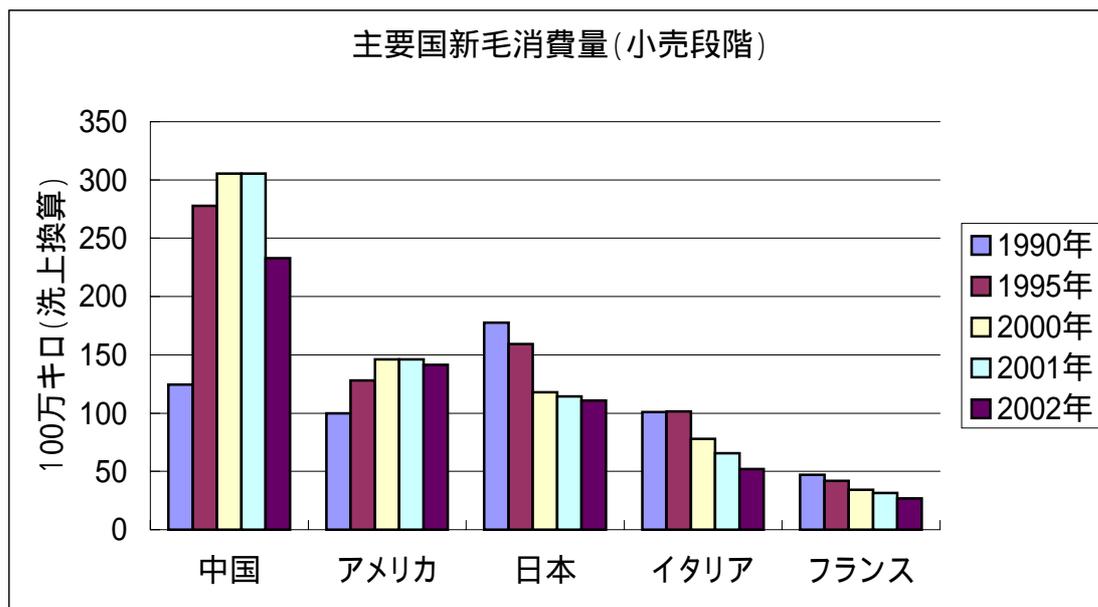


消費は世界3位、8%のシェア

わが国の羊毛工業は羊毛輸入量、毛糸生産量、毛織物生産量のいずれも激減しているが、消費者はウールを拒否しているのではあるか？アパレル段階の新毛(毛織物)需要は約4,910万^{キロ}で、中国はもちろんインド、トルコ、イタリアにも抜かれている(T&F 平成17年2月号)が、最終消費量は中国、アメリカについて3位をキープしている。



出所：ザ・ウールマーク・カンパニー

この数値は幾つかの問題を提起している。

一部で、わが国は「ウール離れをしている」といわれるが、最終消費段階では決してそうはなっていない。比較されるイタリアに比べても2002年は2倍以上の消費をキープしている。羊毛工業段階が空洞化しているだけである。

問題はその消費の多くが、為替問題やコスト問題から輸入毛製品で占められていることである。言えることは国内毛製品市場が消え去ったわけではなく、輸入品に打ち勝てば、市場を取り戻すことができる、ということである。

世界の巨大新毛消費国は中国、アメリカ、日本で、この3か国で37%も占めている。従って貿易戦略としては中国とアメリカが輸出市場としてクローズアップされる。もちろん国内再開発は急務だ。

参考資料 <2002年世界合計消費量(131万8千トン) 国別シェア>

中国	18%	イギリス	7%	イタリア	4%
アメリカ	11%	トルコ	5%	韓国	3%
日本	8%	ドイツ	4%	その他	40%